

令和7年度教育部各課主要事業(12～2月)

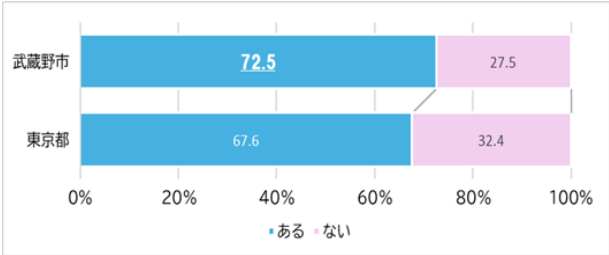
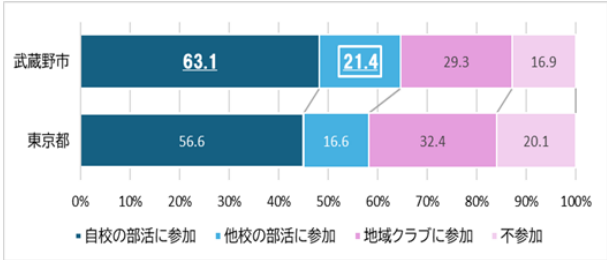
「武蔵野市教育委員会教育目標及び令和7年度武蔵野市教育委員会の基本方針について」(令和7年2月5日議決)や第四期学校教育計画、第二期生涯学習計画、第二期スポーツ推進計画、第二期図書館計画等の個別計画を踏まえ、以下の主要な事業について、進捗状況を定期的に把握しながら着実な実施を図る。

なお、事業の実施にあたっては、感染症や自然災害による影響等、当初想定していなかった事象が生じて、子どもの最善の利益を第一に考え適切に対応する。

事業 1	開かれた学校づくりの推進と地域学校協働活動の充実	基本方針1
		指導課
計画名	第四期学校教育計画	
事業の趣旨・概要	① 学校運営協議会の機能を有した「開かれた学校づくり協議会」を全校展開し、よりよい学校運営に向けた熟議を推進するとともに、学校の教育活動の発信を促進する。 ② 地域資源を生かした学習、登下校の見守りや学校周辺の環境整備等、地域の関係団体と協力し、子どもの学びや成長を支える活動を促進する。	
設定目標	① 市立各小・中学校が、卒業生や地域関係者など多様な人々に委員を委嘱し、継続的な熟議により教育活動の充実を図る。また、学校関係者評価等により教育活動を振り返って、学校の現状を把握し、その結果に基づいて次年度の学校運営の基本方針の承認を行う。 ② 各校にて、「地域の教育力事業」の予算を活用し、地域の特色を生かした教育活動や関係者との協働を図るよう促す。また、年3回の地域コーディネーター連絡会にて、各校の取組を情報共有し、取組の充実を図る。	
第四期学校教育計画で示した指標	○教育目標や教育活動の発信に関する数値の肯定的回答率(各校の学校評価)	
状況説明	① 12月に、開かれた学校づくり協議会の会長会を開催した。「次年度に向けた展望～開かれた学校づくりに向け、子どもと地域をどう参画させていくか～」をテーマにグループ協議を行い、子どもや地域の方々にいかに学校運営に参画いただくか、先生方との連携などが話題になった。 ② 1月に、第3回地域コーディネーター連絡会を開催した。会では、「学校運営協議会を有する開かれた学校づくり協議会になって地域にどのような影響があったか」をテーマに協議を行い、色々な立場から協議会で意見が聞かれるようになったこと、地域行事への教員参加などの効果について話があった。また、武蔵野市民科の学習として地域課題を6年生と共	

	<p>有し、地域のお祭りに児童が参画などの取組、子どもたち向けに実施したアンケートなどの取組が報告された。一方で、1年目ということもあり、地域への影響というのはまだ分からないという声や、持続可能な形にするために委員の確保などの課題が示された。</p> <p>①② 学校評価に関連して行った保護者アンケートでは、「教育目標や教育活動の発信等」に関する数値の肯定的な回答率が次のような結果となった。</p> <p>80～100%＝17校 60～80%＝1校(79%)</p> <p>開かれた学校づくり協議会による学校関係者評価では、次のような声が寄せられた。</p> <p>「ホームページの更新回数が増え、学校の様子が伝わりやすくなった」</p> <p>「学校公開や研究授業、行事の参観を通じて様子がよく伝わっている」</p> <p>「発信内容が家庭での声掛けや、地域での指導の参考になっている」</p> <p>「校支援メールの活用はよい。しかし、情報が多くて、大事な連絡が分からないという声もある」</p>
今後の取組	<p>① 各学校では来年度の教育課程について、「第四期武蔵野市学校教育計画」を基盤に、学校評価等を振り返り、重点的な取組等について、開かれた学校づくり協議会での熟議も踏まえ、3月に教育委員会に提出する。</p> <p>② 連絡会での意見を学校とも共有し、次年度の取組に反映させていく。</p>

	事業 2	地域と連携した部活動の推進	基本方針1 指導課
	計画名	第四期学校教育計画	
	事業の趣旨・概要	<p>① 児童・生徒がより豊かな部活動を経験できるよう、部活動コーディネーターを介し、地域人材等による小・中学校の部活動指導員の確保と資質向上のための研修を実施する。</p> <p>② どの学校でも子どもが希望する運動部や文化部に参加できるよう、「拠点校方式による合同部活動」を段階的に実施する。</p>	
	設定目標	<p>① 部活動コーディネーターを介して、部活動指導員の中学校各校6名、小学校全校で4名の配置を確実に進めるとともに、指導力向上のための研修を年間2回実施する。</p> <p>② 下半期からの拠点校方式による合同部活動を実施に向け、令和7年度中に部活動在り方検討委員会を5回実施し、移動の際の安全確保策や学校の負担軽減をはじめとした運用上の課題を解決する。</p>	
	第四期学校教育計画で示した指標	○「運動やスポーツをすることは好きですか」の肯定的回答率(東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査)	

<p style="text-align: center;">状況説明</p>	<p>① 1月に、部活動指導員スキルアップ研修会を委託先である文化生涯学習事業団が主催した。東京女子体育大学の教授を講師として「外傷・スポーツ障害の防止」に関する研修を実施した。14名の部活動指導員が参加し、テーピングの実技練習や質疑応答など、積極的に研鑽を深めた。</p> <p>② 令和7年度「未来へつなぐ部活動改革アンケート(東京都教育委員会)」の以下の質問項目の結果が東京都全体より武蔵野市が高い結果となった。</p> <p>＜自分のやりたいスポーツや文化・芸術活動が学校や地域にある＞</p>  <table border="1"> <caption>自分のやりたいスポーツや文化・芸術活動が学校や地域にある</caption> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>ある (%)</th> <th>ない (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>武蔵野市</td> <td>72.5</td> <td>27.5</td> </tr> <tr> <td>東京都</td> <td>67.6</td> <td>32.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>＜希望する部活動が学校にない場合、あなたはどうか＞</p>  <table border="1"> <caption>希望する部活動が学校にない場合、あなたはどうか</caption> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>自校の部活に参加 (%)</th> <th>他校の部活に参加 (%)</th> <th>地域クラブに参加 (%)</th> <th>不参加 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>武蔵野市</td> <td>63.1</td> <td>21.4</td> <td>29.3</td> <td>16.9</td> </tr> <tr> <td>東京都</td> <td>56.6</td> <td>16.6</td> <td>32.4</td> <td>20.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>来年度の拠点校部活動について、設置する部活動とその拠点校について、学校と協議・調整を行った。また、次年度の自転車安全利用講習会の受講について、交通企画課と連絡・調整を行った。以上の内容を1月の第5回部活動在り方検討委員会にて各中学校と確認した。</p>	地域	ある (%)	ない (%)	武蔵野市	72.5	27.5	東京都	67.6	32.4	地域	自校の部活に参加 (%)	他校の部活に参加 (%)	地域クラブに参加 (%)	不参加 (%)	武蔵野市	63.1	21.4	29.3	16.9	東京都	56.6	16.6	32.4	20.1
地域	ある (%)	ない (%)																							
武蔵野市	72.5	27.5																							
東京都	67.6	32.4																							
地域	自校の部活に参加 (%)	他校の部活に参加 (%)	地域クラブに参加 (%)	不参加 (%)																					
武蔵野市	63.1	21.4	29.3	16.9																					
東京都	56.6	16.6	32.4	20.1																					
<p style="text-align: center;">今後の取組</p>	<p>① 部活動指導員の質の向上のために、次年度も計画的に研修を実施する。なお、来年度は2回の悉皆研修と、専門性向上のための外部研修の受講推奨を計画している。</p> <p>② 4月早々に令和8年度の生徒向け資料を配布し、次年度の拠点校部活動について周知を図る。</p>																								

	<p style="text-align: center;">事業 3</p>	<p style="text-align: center;">教育相談体制の充実、不登校対応の充実</p>	<p style="text-align: center;">基本方針1</p>	
	<p style="text-align: center;">計画名</p>	<p style="text-align: center;">第四期学校教育計画</p>		
	<p style="text-align: center;">事業の趣旨・概要</p>	<p style="text-align: center;">不登校や様々な悩みを抱えた児童生徒への支援のため、人的支援の強化や児童・生徒の状態に応じた多様な学びの場づくりを進める。</p>		

	不登校児童生徒が増加しているほか、発達障害、虐待、貧困等子どもや家庭に関する課題は多様化、複雑化していることから、関係機関との連携による切れ目のない相談支援体制づくりを進める。
設定目標	<p>① スクールソーシャルワーカーや不登校対策巡回教員による、学校における不登校児童・生徒への支援体制を充実するとともに、全校に配置する常駐型の家庭と子どもの支援員の活動内容の把握や進捗管理を行う。</p> <p>② 教育支援センターや関係機関と連携して切れ目のない相談支援体制を構築し、小中学校の引継ぎ体制の強化を行う。</p>
第四期学校教育計画で示した指標	○「学校とのつながりが全くない子ども」の割合(児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査)
状況説明	<p>① 12月10日に第4回不登校対策連絡会を実施し、スクールソーシャルワーカー、チャレンジルーム、むさしのクレスコーレ、不登校対応巡回教員等関係者が集まり、各担当者が不登校対策事業について報告等を行い、関係者間で情報を共有した。</p> <p>三鷹市、小金井市と本市の三市合同で、教育メタバースの実証事業を11月4日から12月19日までの期間で実施した。本市の申込者数は、小学生6人、中学生5人の合計11人(参考 合計申込者数 小金井市9人、三鷹市7人)</p> <p>令和8年4月の第五中学校チャレンジクラスの開設に向けて、11月14日付けで東京都教育委員会に認定申請書を提出した。12月22日に保護者説明会を第五中学校で実施した。参加者50組(会場参加者24組29人、オンライン配信26組)。令和8年2月12日に東京都教育委員会からチャレンジクラスの認定を受け、2月16日に入級審査会を実施。審査対象者は、11人(新1年生 7人、新2年生 2人、新3年生 2人)。審査の結果、審査対象者11人の入級を決定した。</p> <p>② 12月2日に今年度第2回の”学校に行きづらい子どもの気持ち”を考える保護者の集い(講師 杏林大学名誉教授 古賀良彦氏)を実施した(参加者21人)。また、令和8年2月17日に第3回の“学校に行きづらい子どもの気持ち”を考える保護者の集い(講師 東京学芸大学教授 福井里江氏)を実施した(参加者17人)。各回ともに武蔵野芸能劇場において、第1部では講演会、第2部では保護者間の意見交換会を実施した。</p>
今後の取組	<p>① 教育メタバースは、3月までに実施事業者により効果検証及び文部科学省に提出する報告書の作成が行われる予定</p> <p>第五中学校チャレンジクラスは、3月に教育委員会定例会での報告、市議会文教委員会での行政報告を行うほか、4月の開設に向けて教室環境の整備を行う。</p>

	② 令和8年度の“学校に行きづらい子どもの気持ち”を考える保護者の集い及び子育て支援講座の実施方法等について検討し、必要な準備を行う。
--	---

事業 4	教育データの蓄積と活用と校務 DX を中心とした働き方改革の推進	基本方針1
		指導課
計画名	第四期学校教育計画	
事業の趣旨・概要	<p>① 学校の声を踏まえた次期学習者用コンピュータの着実な調達と、デジタルを活用したこれからの学びや教育ダッシュボードの研究を進める。</p> <p>② 「先生いきいきプロジェクト 2.0」に基づき、業務の効率化を一層進めるため、ICTの活用や学校を支える人員の配置などの取組を推進する。</p>	
設定目標	<p>① 令和8年度から全市立小・中学校で次期学習者用コンピュータを使用できるよう、端末やアプリケーション、ネットワークなどの環境を整える。「デジタルを活用したこれからの学びに関するモデル校(第三小、関前南小)」を設置し、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実に関する取組を発信・共有し、各校におけるデジタル活用の機運を一層高める。</p> <p>② 東京都の「外部コンサルタントを活用した業務改革支援事業」を活用し、改革対象校(第四小、第四中)を中心に一層の業務効率化を進める。令和8年度に「先生いきいきプロジェクト3.0」を策定する準備のために、教員の時間外在校時間の把握や、ワークライフバランスへの満足度などの把握を行う。</p>	
第四期学校教育計画で示した指標	<p>○「前学年までに受けた授業で、PC・タブレット等のICT機器を、どの程度使用しましたか」の「ほぼ毎日」の回答率(全国学力学習状況調査)</p> <p>○1か月の勤務時間外の在校時間が45時間を超える教員の人数</p>	
状況説明	<p>① 次期学習者用コンピュータの配付及び現行端末の取り扱いについて、スケジュール等を確定し、学校と共有するとともに、保護者へ現行端末の回収と新端末の配布について案内した。</p> <p>② 「先生いきいきプロジェクト3.0」のたたき台に対する学校意見について集約し、その分析を行った。結果、学校での取組推進とともに、教育部内の学校への働きかけについても検討すべき項目が複数挙げられた。(例…市教委提出書類の簡略化・一元化・電子化など)</p>	
今後の取組	<p>① 新端末を新年度からの教育活動で十分に活用できるよう、新たに導入する授業支援ソフト及びデジタルドリルの操作研修を中学校区ごとに実施する。</p> <p>② 教員の働き方改革と教育部内の業務効率化を図るためのタスクチームをつくり、横断的な業務改善に関する検討を進める。</p>	

	「外部コンサルタントを活用した業務改革支援事業」について、今年度の取組とその成果等を2月の定例校長会にて、各学校と共有する。
--	--

	事業 5	学校改築の計画的な推進	基本方針1
			教育企画課
計画名	第四期学校教育計画、学校施設整備基本計画、第一中学校改築基本計画、第五小学校改築基本計画、井之頭小学校改築基本計画		
事業の趣旨・概要	児童・生徒数の増加、小中学校新学習指導要領の全面实施による教育的ニーズの変化、自然災害リスク等の外的要因に適切に対応し、良好な教育環境を確保するため、計画的な学校改築を実施する。		
設定目標	<p>【第一中学校】</p> <p>① 令和7年10月31日までに新校舎・新体育館の工事を安全に進めて完了させる。</p> <p>② 新規備品の購入、仮設校舎備品の精査、引越委託業者の決定を行う。</p> <p>③ 第一中と井之頭小の校地共用の課題について整理し、方針を決定する。</p> <p>【第五小学校】</p> <p>① 今年度中に既存校舎の解体工事を完了させる。</p> <p>② 令和7年12月に議決を得て、建設工事業者と契約を締結する。</p> <p>③ 学校と連携しながら、スクールバスの運行を安全に実施する。</p> <p>【井之頭小学校】</p> <p>① 令和7年度末の実施設計完成を目指し作業を進める。</p> <p>② 令和7年12月に議決を得て、解体工事業者と契約を締結する。</p> <p>③ 令和8年度からのスクールバス運行に向けた事前準備を進める。</p>		
第四期学校教育計画で示した指標	—		
状況説明	<p>【第一中学校】</p> <p>① (新校舎・新体育館の工事完了のため記載なし。)</p> <p>② 学校と緊密に調整しながら、備品納入、移転作業を着実に進め、1月からの新校舎使用開始を予定通り実現した。</p> <p>③ プールの共用化や通学路の設定など、近隣校との連携を要する課題についても、学校間での調整を重ねながら方針の検討を進めた。</p> <p>【第五小学校】</p> <p>① 大きな振動が伴う基礎解体について、作業方法の工夫により近隣への影響を最小限に抑えるなど、細心の注意を払って作業を進めた。</p> <p>② 入札不調を受けて設計書等の修正を行い、2月に再入札を実施し、建築・電気・機械工事の各施工者を決定した。</p>		

	<p>③ 安定した運用ができています。冬季の降雪時対応について関係者で協議した。学校が休校になっても学童クラブは開設する場合、スクールバスのダイヤ変更はできないため通常ダイヤでの対応となる旨、共有した。新入生向けの説明会を1月に実施した。新入生の申込者数は36名。(2月16日時点)</p> <p>【井之頭小学校】</p> <p>① 1月28日に改築懇談会を実施し、設計プランの変更、改築期間中のバス運行事業、解体工事の進め方等について説明を行った。</p> <p>② 12月に解体工事事業者と契約を締結し、4月の工事本格化に向けて、近隣住民への説明会や各種調査等の準備を進めた。</p> <p>③ 12月にスクールバスの沿道説明会、保護者説明会を開催した。在校生の申込者数は206名。別途新入生向けの説明会を2月に実施した。新入生の申込者数は47名。(いずれも2月16日時点)</p>
今後の取組	<p>【第一中学校】</p> <p>① (新校舎・新体育館の工事完了のため記載なし。)</p> <p>② (備品搬入、移転完了のため記載なし。)</p> <p>③ 引き続き、学校と連携しながら共用化に向けて必要な協議を進める。</p> <p>【第五小学校】</p> <p>① 解体工事を工期内に完了させた上で、総務課の検査を受検し、遅滞なく改築工事に着手できるよう準備を進める。</p> <p>② 建築・電気・機械の各工事において、3月の議会にて議決を得て本契約を締結したうえで、施工計画の検討等の事前準備を進める。</p> <p>③ スクールバス利用者については、継続・新規受付をする。新規申込者のバスカードは3月に送付予定。</p> <p>【井之頭小学校】</p> <p>① 建築・構造・設備の各設計間の整合性を精査した上で、計画通知の申請に向けた図面作成等の準備を進める。</p> <p>② 4月からの解体工事本格化に先立ち、アスベスト含有調査や周辺建物の家屋調査を実施し、遅滞なく工事に着手できるよう準備を進める。</p> <p>③ 乗降所整備工事の実施、運行事業者の試走、井之頭通り、五日市街道の停止線引き下げ工事(路線バスが左折する際に対向車線にはみ出す部分があるため)を実施する予定。</p>

	事業 6	第二期学校施設整備基本計画の策定	基本方針1
			教育企画課
	計画名	第四期学校教育計画、学校施設整備基本計画	
	事業の趣旨・概要		

	現計画が令和9年度末で計画期間満了となることを受け、令和9年度から令和17年度まで(令和9年度は現計画との重複期間)の学校改築の基本的な方向性を定めるため、令和7年度から令和8年度にかけて次期計画を策定する。
設定目標	① 審議会を設置し、全市的な視点から中学校の適正な数や未来における教育を見据えた校舎のあり方について検討を進める。 ② 審議会での審議を進めると同時に、子ども・教職員・保護者・地域を対象として、情報発信と意見聴取を行う。
第四期学校教育計画で示した指標	—
状況説明	① 1月19日に第4回審議会を開催し、審議会でもとめた1校12～18学級の適正規模を下回る中学校の内、第二期計画期間中に改築を予定している第二中学校、第六中学校に対する方策を審議した。 2月25日に第5回審議会を開催し、適正規模を下回る中学校に対する方策を継続審議した。あわせて中間まとめ案を審議した。 ② 第3回審議会までの内容をまとめたリーフレットvol5を12月に発行し、1月6日、8日、9日に市内3駅圏の会場で審議状況の説明会を実施し、77名の参加があった。 第4回審議会までの内容をまとめたリーフレットvol6を2月に発行した。
今後の取組	①② 3月に中間まとめのパブリックコメント、ならびに児童・生徒に対する意見聴取を実施する。合わせて市内3駅圏の会場で中間まとめ説明会を実施する。

	事業 7	安心できる学校・学級風土づくり	基本方針2
			指導課
計画名	第四期学校教育計画		
事業の趣旨・概要	① 自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動につながるよう、道徳授業や生徒指導の充実、いじめ防止対策推進法等に基づきいじめ対策の推進、「武蔵野市子どもの権利条例」の周知・啓発を図る。 ② より安心して学べる学校をつくるため、「学校風土調査」に基づく授業や生徒指導の改善に関する研究を進め、その成果を各校に還元する。		
設定目標	① 各校にて、いじめに関する道徳授業やスクールカウンセラーの面談、定期的なアンケート調査、迅速な保護者との連携等を実施し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努め、重大事態案件の発生を防ぐ。 ② 市立小・中学校のいじめ防止に関する取組や国の方向性を踏まえ、市いじめ防止基本方針及び具体的方策、啓発資料を年度末までに改訂する。		

	<p>③ 各校で、校長講話など子どもの権利を学ぶ機会を設定し、保護者や地域に発信する。また、特別活動や武蔵野市民科にて、子どもが自分の意見を主張する取組を推進し、子どもの意見表明の実現を目指す。各校で、校長講話など子どもの権利を学ぶ機会を設定し、保護者や地域に発信する。また、特別活動や武蔵野市民科にて、子どもが自分の意見を主張する取組を推進し、子どもの意見表明の実現を目指す。</p> <p>④ 教育課題研究開発校(第二小…生徒指導の充実、第六中…人権教育)にて、「学校風土調査」を踏まえた子どもが安心して学べる授業や生徒指導の取組改善に努め、その成果を年度末までに各校に還元する。</p>
第四期学校教育計画で示した指標	<p>○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定的回答率(全国学力学習状況調査)</p> <p>○「自分には、よいところがあると思いますか」の肯定的回答率(全国学力学習状況調査)</p>
状況説明	<p>① 2月のふれあい月間にて、各校のいじめ防止に関する取組の振り返りを行うとともに、いじめの実態把握に関する武蔵野市共通アンケートを全校で実施し、いじめの発見・早期対応を行った。</p> <p>② 12月の定例教育委員会にて、市いじめ防止基本方針及び具体的方策の協議を行い、2月に開催する市いじめ問題対策委員会に向けた準備を進めた。また、校長会、副校長会、生活指導主任会にて改訂案について説明し、各校のいじめ防止基本方針の見直しについて検討を進めた。</p> <p>③④ 2月10日に第二小学校にて、「子どもたちが安心して学べる学校を目指して～学校風土の「見える化」を通して～」をテーマに研究発表を行った。当日は市内外の教員含め164名が参加した。研究では、児童が安心して学べる学校を目指し、「学校風土調査」を活用して、学校の雰囲気や環境などの課題を捉え、教育環境や教育活動の改善に取り組んだ。</p>
今後の取組	<p>①② 引き続き、各校にていじめ防止の取組改善に努める。2月の市いじめ問題対策委員会で基本方針等改訂案に意見を伺い、3月の定例教育委員会に議案として提出予定する。あわせて、次年度からスムーズに移行できるよう、各校でも学校の基本方針や取組の見直しを進める。</p> <p>③④ 研究では、「ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくり」「学びの自己決定」「協働的な学習活動」を3つの柱として授業改善や学校生活における取組の工夫を進めた。調査結果から、安心できる環境や風土の構築が進んでいることが分かってきており、今後、研究の成果や本調査の活用を他校へと展開する。</p>

事業 8	より広いインクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育の充実	基本方針2
		教育支援課

計画名	第四期学校教育計画
事業の趣旨・概要	インクルーシブ教育システムの理念を踏まえて、連続性のある多様な学びの場を用意し、個々の教育的ニーズに応じた自立活動の内容を踏まえた個別な指導をスムーズに行う必要がある。
設定目標	① 増加している特別支援教室利用の生徒がよりよい教育を受けることができるために、新たな拠点校を令和8年度を目安に設置する準備を行い特別支援教育の充実を図る。 ② 就学相談や通級開始のネックとなっていた発達検査について見直しを行い、発達検査を受けるまでの時間を現在以上に縮減し、相談体制の充実を図る。
第四期学校教育計画で示した指標	—
状況説明	① 令和8年度の特別支援教室拠点校の設置に向けて、「武蔵野市立学校特別支援学級等に関する規則」等、必要な例規等の改正作業を行った。 ② 就学相談及び特別支援教室に係る発達検査の業務を教育支援センターから教育支援課(市役所)に移し、運用を開始した。児童生徒の就学先を検討する就学相談には162件、転学相談には31件の申込みがあった。発達検査の件数は、154件(1月末日時点)
今後の取組	① 「武蔵野市立学校特別支援学級等に関する規則の一部を改正する規則」を令和8年第2回教育委員会定例会に議案として提出する。 ② 令和8年度においても引き続き現在の体制で発達検査を行うことができるよう、職員の任用手続等必要な準備を行う。

	事業 9	持続可能な長期宿泊体験活動の実施	基本方針2
			指導課
計画名	第四期学校教育計画		
事業の趣旨・概要	① 事業開始30年目を迎え、子どもの参画や、探究的な学び、教科等横断的などの視点から長期宿泊体験活動を充実する。 ② 安全な実施を第一に、持続可能な事業とすべく、長期宿泊体験活動検証委員会の報告内容を基に、運営の在り方を見直す。		
設定目標	① 各校にて、「宿泊体験活動を通して育成を目指す資質・能力の系統表」に基づき、人間関係形成力や課題解決能力等を育むために、学校の実態や訪問地の特色を生かした長期宿泊体験活動を計画的に実施する。緊急時の現地との連携や宿泊先の負担、生活指導員の確保など、実施上の課題について検討を進め、安全に実施できる体制を整える。 ② 効果検証方法の見直しを進める。また、小学校第5学年のセカンドスクールに関して、できるだけ同じ条件下で5泊6日と6泊7日の日程で実施		

	する学校をそれぞれ設定し、泊数について今後の在り方の比較・検討を進める。(6泊7日を実施するモデル校＝本宿小、千川小)
第四期学校教育計画 で示した指標	—
状況説明	<p>①② 1月に第19回教育フォーラムにて、『『自然体験は、学びの宝物』～30年を迎えたセカンドスクールがつなぐ未来へのきずな～』をテーマに、実践発表やパネルディスカッションを行った。当日は、発表者、事務局を含めて121名が集った。実践発表では、本事業の肯定的評価について、子ども・保護者・教員ともに高く、自然への愛着や人間関係形成についての成長を実感している様子が報告された。パネルディスカッションでは、参加者の質問等を受けながら、「セカンドスクールの核となるものは何か」「取組を続けていくうえでの課題は何か」などについて意見を出しあった。参加者からは本事業の意義についての理解とともに、課題の解決に向けた教育委員会への支援等を期待する声などが寄せられた。</p> <p>② 1月の定例教育委員会にて、「持続可能な長期宿泊体験活動に関するモデル校事業の検証結果について」を報告した。6泊7日で実施したモデル校とその他の学校のアンケート結果を比較すると差が生じている項目はあるものの、有意な差とは言えない結果となった。</p>
今後の取組	①② 教育フォーラムの内容をいかし、令和8年度も継続して持続可能な長期宿泊体験活動に関するモデル事業を本宿小、千川小にて実施し、事業の効果検証をさらに進める。

	事業 10	探究的な学習過程による総合的な学習の時間の推進と武蔵野市民科の充実	基本方針3
			指導課
計画名	第四期学校教育計画		
事業の趣旨・概要	<p>① 地域コーディネーターを介し、総合的な学習の時間や各教科等において、探究的な学びにつなげる子どもと住民との協働的な学びを推進する。</p> <p>② 総合的な学習の時間において、子どもの課題意識を大切にされた探究的な学習過程を充実する。特に小学校第5学年からの武蔵野市民科においては、「自分がどう関わるか」を発信・実行する取組を充実する。</p>		
設定目標	① 各校にて、「地域の教育力事業」の予算を活用し、地域の特色を生かした教育活動や関係者との協働を図るよう促すとともに、年3回の地域コーディネーター連絡会にて、各校の取組を情報共有し、取組の充実を図る。(事業1の設定目標②再掲)		

	② 年3回の武蔵野市民科カリキュラム推進委員会において、探究的な学習過程による単元計画作成や小中連携、地域コーディネーターとの連携、好事例の共有を行い、各校の特色ある実践を一層充実させ、発信する。
第四期学校教育計画 で示した指標	○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する等の学習活動に取り組んでいますか」の肯定的回答率(全国学力学習状況調査) ○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定的回答率(全国学力学習状況調査)
状況説明	① 1月に、第3回地域コーディネーター連絡会を開催した。会では、「学校運営協議会を有する開かれた学校づくり協議会になって地域にどのような影響があったか」をテーマに協議を行い、色々な立場から協議会で意見が聞かれるようになったこと、地域行事への教員参加などの効果について話があった。また、武蔵野市民科の学習として地域課題を6年生と共有し、地域のお祭りに児童が参画などの取組、子どもたち向けに実施したアンケートなどの取組が報告された。一方で、1年目ということもあり、地域への影響というのはまだ分からないという声や、持続可能な形にするために委員の確保などの課題が示された。(事業1の②再掲) ② 当事者意識や社会参画意識の醸成、対話による合意形成等の機会を確保するため、各学校では、武蔵野市民科の取組を推進した。12月18日に武蔵野市民科カリキュラム推進委員会を実施し、第五中学校の市長への提言を視察するとともに、各校の取組について情報共有や小中連携の可能性について協議した。
今後の取組	①② 各校にて、今年度の取組を完結させ、報告書にまとめる。市教委で取組を集約して、次年度に向けた啓発資料を作成するほか、各校でもHP等にて、発信をする。

	事業 11	特色ある教育活動の充実と教員のやりがい支援	基本方針3
			指導課
計画名	第四期学校教育計画		
事業の趣旨・概要	① 学校の教育目標実現に向け、教育活動を振り返り、充実する取組や教育課題研究開発校の指定、中学校区内の相互協力を進める。 ② 教員のやりがいや主体的な学びを支援するために、市主催の教員研修の充実や研修参加の支援を行う。		
設定目標	① 校長が作成する学校経営計画の記載事項を見直すとともに、年度末の学校評価にて、取組状況を振り返り、次年度の教育活動の充実につなげる。また、文部科学省の教育課程や授業時数の特例校制度の研究を進める。		

各中学校区にて、学区の実態に応じたテーマを設定した小中学校合同研修会を実施し、小・中学校で連携した取組を推進する。

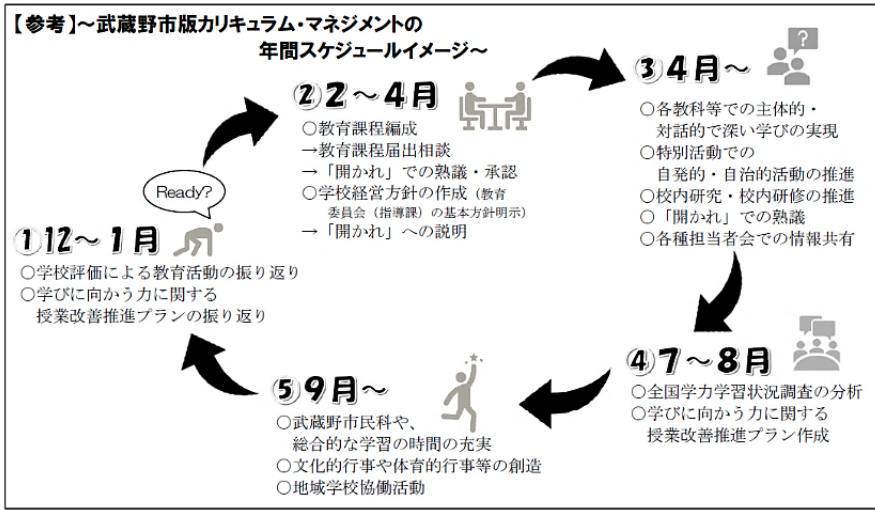
教育課題研究開発校に「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」(桜野小)を指定し、11月の発表に向け、研究の支援を進める。

② 年間として若手教員や臨時的任用教員等に対する教育アドバイザーや指導主事による授業支援を行う。また、市主催の教員研修を充実する。教員が都認定団体等の主催する研究発表会などに参加するための参加費補助を実施し、主体的な研鑽を推奨する。

第四期学校教育計画
で示した指標

○「校務の改善・見直しにより、児童・生徒と向き合う時間が増えた」の肯定的回答率(先生いきいきプロジェクト効果検証アンケート等)

① 12月に次年度の教育課程届出説明会を実施し、下記のようなカリキュラム・マネジメントの年間スケジュールを示し、教育課程の編成について学校全体で進めていくよう指示した。



状況説明

学校評価に関連して行った教職員アンケートでは、「校務の改善・見直しにより、児童・生徒と向き合う時間が増えた」が次のような結果となった。

80～100%=4校 60～80%=4校 40～60%=5校
20～40%=5校

学校の分析や開かれた学校づくり協議会による学校関係者評価では次のような声が聞かれた。

「市講師等の活用により、教員一人当たりの持ち時数は削減できたが、特別な支援を要する子への支援や保護者連絡に時間がかかる」

「在校時間は短縮傾向にあるが、教員の実感が伴っているとは言い難く、教職員の意見収集と共有、改善成果の見える化を行う」

「自動採点ソフトや生成AIの活用により、ある程度業務の軽減を実感できているが、できた余白を他の業務で埋めないように意識を醸成していく」

「働き方改革の話は聞いているが、肯定的な回答の比率が低いことに驚

	<p>いた。土日など、地域でもできることを協力していきたい」</p> <p>「評価が低いことは、教員が目指すところが高いことの裏返しにも思う」</p> <p>なお、令和8年1月末段階での1か月の時間外在校時間が45時間を超えている教員の割合は以下の通りである。</p> <table border="1"> <tr> <td>小学校</td> <td>平均17%(上位2カ月 4月42.9%、5月35.1%)</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>平均29.9%(上位2カ月 10月44.3%、4月42.9%)</td> </tr> <tr> <td>参考</td> <td>東京都(令和7年10月)…小学校33.8%、中学校47.7%</td> </tr> </table> <p>② 1月末までに、教育アドバイザーと指導主事による若手教員をはじめとした授業支援を20回以上行い、情報や課題の共有と、今後の対応に関する検討を行った。</p> <p>都認定団体等の主催する研究発表会への申し込みは、1月末までに9校21件(昨年同時期は11校18件)の申し込みがあった。</p>	小学校	平均17%(上位2カ月 4月42.9%、5月35.1%)	中学校	平均29.9%(上位2カ月 10月44.3%、4月42.9%)	参考	東京都(令和7年10月)…小学校33.8%、中学校47.7%
小学校	平均17%(上位2カ月 4月42.9%、5月35.1%)						
中学校	平均29.9%(上位2カ月 10月44.3%、4月42.9%)						
参考	東京都(令和7年10月)…小学校33.8%、中学校47.7%						
今後の取組	<p>① 各学校で教育課程を編成し、開かれた学校づくり協議会での熟議、指導主事による事前相談を行い、次年度に向けた準備を進める。</p> <p>校内における校務改善・見直しの受け止めについて、学校ごとの差が大きいことから、市教育委員会として「先生いきいきプロジェクト3.0」の策定作業を進めるとともに、各学校の学校経営方針にも働き方改革の取組や指標を位置付け、進捗の把握や取組の推進を行う。</p> <p>② 教育アドバイザーと指導主事による授業支援引き続き行うとともに、若手教員を中心に、今年度の取組成果等を共有し、次年度につなげる。</p>						

	事業 12	「学びをおくる」生涯学習社会の推進	基本方針4
			生涯学習スポーツ課
	計画名	第二期生涯学習計画	
	事業の趣旨・概要	<p>① 第二期生涯学習計画の基本理念に掲げる「学びおくりあう」機会の充実を図る。</p> <p>② 市民会館大規模改修工事</p> <p>築40年を迎え老朽化が進んでいる施設の保全を図り、生涯学習の拠点施設として時代に即した機能維持・向上を実現するため大規模改修工事を実施する。令和7年度は通常開館するなかで、9月より準備工事を行い、令和8年度には1年間の休館期間を伴う現場工事を実施する。</p>	
	設定目標	<p>① 「学びおくりあい」の一層の周知を図るための広報や、「学びおくりあい」を推進する事業について検討する。また、土曜学校「サイエンスクラブ」の理科研究・実験等に関する学びの成果発表の場であり、地域のNPOなど様々な機関の学びおくりの場である「むさしのサイエンスフェスタ」の充実を引き続き図る。</p> <p>② 関係各課と連携して、工事契約を遺漏なく進める。</p>	

	<p>令和8年度休館中も活動を継続する団体に対して、代替使用可能な施設の情報提供を行う。休館期間中の仮事務所への移転、事務事業(リニューアル後の市民会館のあり方検討、自主事業の精査等)の諸準備を進める。</p>
状況説明	<p>① 土曜学校サイエンスクラブの小中学生が学びをおくる側として、五中STEAM部、大学・NPO・民間団体等ともに出展した「むさしのサイエンスフェスタ」(11月1日開催)の報告書を作成し、市ホームページに公開した。</p> <p>市民アンケート結果、庁内調査などの分析をもとに、生涯学習事業への参加が少ない中学生以上を主な対象とした事業を検討した。</p> <p>② 大規模改修工事関連については、関係者間の打合せが始まり、工事着手に向けての準備が進んだ。</p> <p>令和8年度休館中の自主事業について、実施もしくは休止を決定すると同時に、仮事務所移転等に向けた準備を進めている。</p>
今後の取組	<p>① 社会教育委員の意見をふまえ検討した、第二期生涯学習計画の基本理念「学びおくりあい、私たちがつくるまち」の実現を目指し、市民の生涯学習の発展等に寄与する補助金を新設し、令和8年度から実施する。より分かりやすい広報等について検討する。</p> <p>黒板アート体験講座を3月1日に、容器文化ミュージアム・防災体験のバス見学を3月26日に、試行実施する。参加する中学生にアンケートで生涯学習意向について聞き、今後の事業の参考とする。</p> <p>② 工事のほか、仮事務所移転及び購入備品の検討等、大規模改修に向けての準備を引き続き行う。</p> <p>令和8年度の自主事業は出張開催の形となる。着実に開催できるよう準備を進める。同時に令和9年度の市民会館再開に向け、システム導入やそれにとまなう受付方法の整理等を進めていく。</p>

	事業 13	誰もがスポーツを楽しめる機会の創出	基本方針4
			生涯学習スポーツ課
	計画名	第二期スポーツ推進計画	
	事業の趣旨・概要	多様な主体が楽しむスポーツの推進、障害者がスポーツに親しめる機会の創出、多様なスポーツの楽しみ方の創出、新たなスポーツとの出会いの創出、スポーツ支援団体等との連携の推進を行う。	
	設定目標	① スポーツ実施率が比較的低い子育て世代・働き盛り世代などをターゲットにしたスポーツ教室等の事業実施や、障害者を対象としたアウトリーチ事業の継続、アーバンスポーツ等の新たなスポーツとの出会いを創出することを実施し、スポーツを通じた魅力と活力があふれるまちを目指す。	

	<p>② 武蔵野市の特性を生かした取組みとして、市内ゆかりのトップアスリートによるSports for Allなどのスポーツイベントの充実や、アスリートによる学校訪問や授業支援などを実施する。</p> <p>③ 地域スポーツ大会やスポーツイベントを開催し、スポーツを楽しむ機会や場の充実が図れるよう武蔵野市スポーツ協会や武蔵野市スポーツ推進委員協議会等と連携をより強化していく。さらに、スポーツに関わる民間企業等との連携を図っていくことにより、行政だけではなく、様々な資源を活用した取組みを行うことにより武蔵野市全体のスポーツ環境をより充実させていく。</p>
状況説明	<p>① 「障がい者のためのスポーツ広場」をコミュニティセンターにて、出張開催したが、参加が無かったため、今後、事業の周知を強化する。</p> <p>② 元オリンピックによるバレーボール授業支援を小学校5校で実施した。ラグビーの授業支援を小学校5校で実施した。横河武蔵野アトラスターズ選手との選手交流を小学校9校で実施した。</p> <p>③ 武蔵野ロードレース開催に向け、警察署・消防署・路線バス会社と協議した。開催運営のための大学生ボランティアの募集枠を広げ募集している。</p>
今後の取組	<p>① 市民スポーツ祭、総合体育館における多様なスポーツ教室を実施する。</p> <p>② 令和8年度の授業支援事業等の実施に向け準備を進める。</p> <p>③ 武蔵野ロードレース(令和8年3月15日(日)予定)及び、令和8年度事業ファミリースポーツフェア(令和8年4月26日(日)予定)に向けた準備を進める。</p>

	事業 14	体育施設の計画的な改修・修繕	基本方針4 生涯学習スポーツ課
計画名	第二期スポーツ推進計画		
事業の趣旨・概要	<p>市民スポーツの拠点である総合体育館は長寿命化を目的とし、全市的な市民施設及び、地域に根付いた健康維持・増進のための施設として利用できるよう令和8年度からの改修工事に向けて検討を進める。</p> <p>市営プールについては、令和6年度に策定した武蔵野市営プール整備方針に基づき、誰もが利用しやすいプールの充実を目指し、基本計画を策定する。</p>		
設定目標	<p>① 総合体育館について、令和6年度に実施した基本設計を基に、より詳細な実施設計を行う、併せて、工事実施に向けた契約準備を進める。</p> <p>② 市営プールについて、令和6年度に策定した武蔵野市営プール整備方針を基に、基本計画を策定する。</p>		

状況説明	<p>① 引き続き、実施設計を進めている。また、来年度工事契約に向けた施工事業者のサウンディングを実施している。</p> <p>② 12月2日教育委員会定例会にて報告し、12月10日文教委員会で行政報告を行った。12月15日から令和8年1月5日の期間にパブコメを実施し、43名から意見が寄せられた。令和8年2月9日教育委員会定例会にて議決された。</p>
今後の取組	<p>① 令和8年度からの工事契約等に向け、準備を行う。</p> <p>② 令和8～9年度に策定する基本・実施設計策定に向け、準備を行う。</p>

	事業 15	歴史公文書と文化財の保存・利活用の推進	基本方針5 生涯学習スポーツ課
	計画名	第二期生涯学習計画、武蔵野ふるさと歴史館第3期管理運営基本方針	
	事業の趣旨・概要	<p>複合機能を有する施設としての特徴を生かして切れ目のない生涯学習支援を行う。引き続き公文書館機能の強化を図り、旧永年保存文書の選別、公開を進め次世代に伝えていくとともに、広く歴史公文書等を収集・保存・整理し、適切な公開・活用を行う。</p> <p>文化財指定や調査研究等により、文化財保護普及事業を行ない、これまでに収集してきた市域の貴重な文化財を引き続き保管する。</p>	
	設定目標	<p>① 歴史公文書等の活用を進めるため、市民に身近なテーマ・素材との紐づけに取り組み、展示・講座等市民の目に触れる機会の創出を積極的に行う。</p> <p>② 緑のまち推進課と協議し、天然記念物(樹木)の登録へ向けた事前調査及び登録手続きを進める。また、令和6年度 武蔵野市自然環境等実態調査の結果をもとに、天然記念物の登録基準について検討し、令和7年度以降の天然記念物(樹木)登録の際の内部基準として準備する。国登録有形文化財である瀨家住宅西洋館の活用について、関係課や機関と協議を行う。市内小中学校にとどまらず、近隣・類縁機関と連携をし、教育普及・博学連携等の諸事業を実施する。</p>	
	状況説明	<p>① 亜細亜大学の「総合的な学習の時間」探究過程の授業について、インタビューを受けるなど協力した。また、成蹊大学およびむさしのFMが連携して実施している、「メディア・リテラシー演習」に協力し、ラジオ出演等を行った。</p> <p>教材に歴史公文書を用いる歴史館大学の受講生による、成果展示を実施した。</p> <p>② 「井野家の大ケヤキ」について天然記念物(樹木)として、1月19日付けで登録した。</p> <p>成蹊大学との連携の一環として、瀨家住宅西洋館について、学生広報委</p>	

	<p>員会による取材を受けた。編集記事については、令和7年度中に成蹊学園のWEBサイトに掲載される予定。</p> <p>市内の文化財や名所を訪れるデジタルスタンプラリー2025(11/9～1/8)を開催した。累計参加者数497人、うち回遊者233人であった。</p> <p>歴史館大学については、各分野において専門的な内容を市民に伝えるとともに、自発的に地域の歴史を調べることのできる人材の育成を図っている。</p> <p>令和7年第4回企画展「武蔵野のくらしを探る-道具・まち・仕事-」を開催し、1月29日より全市立小学校3年生の全生徒が歴史館を訪れる学校教育連携事業を開始した。</p>
今後の取組	<p>① 電子公文書の取り扱いおよび移管について、総務部総務課と協議し、考え方を整理する。</p> <p>例年行っているとおりに、各課から引き継がれた文書の評価選別を進める。</p> <p>職員向けの公文書管理研修を3月に実施する予定である。</p> <p>② 史料について、デジタル撮影を進めていく。デジタル化が完了している文書については、データベース上での閲覧利用が可能な環境を整えていく。</p>

	事業 16	市立図書館を支える人材の育成	基本方針6
			図書館
計画名	第2期図書館基本計画		
事業の趣旨・概要	<p>これからの図書館を支える図書館員には、図書館を含む市政全体の様々な視点を持ちながら、計画の策定と進行管理、人事・予算・施設のマネジメントを行う市職員としての知識と実務経験、そして図書館サービスに必要な図書館員としての知識と実務経験の両方が求められる。</p> <p>今後、図書館を長く支えてきた職員が退職を迎え、その代わりに初めて図書館に配置される人材が増える中、武蔵野市立図書館人材育成計画に基づき、図書館人材の育成を計画的に実施する。</p>		
設定目標	<p>① 引き続き、図書館を支える中核人材育成のため(公財)文化生涯学習事業団との相互派遣を行うとともに、文科省が実施する司書養成プログラムに職員を派遣参加させ、今後の図書館運営を担っていく人材の育成を行う。</p> <p>② 各種専門研修(著作権実務講習会、各種レファレンス研修等)のほか、図書館業務を体系的に学べる研修への参加も計画的に進める。</p> <p>③ 他課と連携して行う図書展示等の取り組みを通じ、市政全般の様々な課題を職員自身が改めて認識するとともに、来館者へのより効果的な発</p>		

	<p>信に努める。</p> <p>④ 図書館員の専門性を高めていくことを目的として、人材育成を計画的に実施するため、令和7年度中に武蔵野市立図書館人材育成計画の改定を行う。</p>
状況説明	<p>① 相互派遣研修の職員について、各館の実情に合わせた実務対応により経験の蓄積を図ったとともに、今期の業務評価、振り返りを実施した。また、事業団からの次期派遣職員について、事業団と調整を進めた。司書養成プログラムへの職員派遣については、次年度の派遣対象者の選定に着手した。</p> <p>② 期間中に実施のあった国会図書館主催のレファレンス研修に中央、分館からそれぞれ参加したほか、文科省主催の専門研修に職員が参加し、施設の視察等を実施した。また、他自治体で特徴的な取り組みを行っている施設の視察を事業団と連携して行った。</p> <p>③ 中央図書館にて武蔵野ふるさと歴史館との共同展示「武蔵野のくらしを探る－道具・まち・仕事－」を2月5日から5月6日まで実施するなど、他課施策と連携した図書展示を行った。</p> <p>④ 改定作業中の図書館人材育成計画の素案を固め、庁内、事業団との調整を進めた。</p>
今後の取組	<p>① 相互派遣研修により中央図書館に派遣された職員について、引き続き関連案件がある場合には会議傍聴を行い、政策形成に関する知識の習得を図るほか、各館での実務経験を蓄積する。</p> <p>② 今後予定されている外部研修に参加するほか、事業団と連携して実施した他自治体で特徴的な取り組みを行っている施設の視察について、3月4日に報告会を実施し、共有を図る。</p> <p>③ 現状では実施中の武蔵野ふるさと歴史館との共同展示以外には今年度中予定している展示はない。今後、新たな依頼があれば、実施について検討する。</p> <p>④ 図書館人材育成計画改定について調整を進め、今年度中に確定させる。</p>

	事業 17	子どもたちの読書活動の推進	基本方針6
			図書館
計画名	第2期図書館基本計画、第2次子ども読書活動推進計画		
事業の趣旨・概要	第2次武蔵野市子ども読書活動推進計画に基づき、図書館を中心に、家庭、地域、学校、関係機関が連携して、本市における子どもの読書環境を整備し、充実を図る。		

<p>設定目標</p>	<p>① 読み聞かせボランティアの活用を進め、子どもの読書環境の充実を図る。</p> <p>② 図書館において、情報活用等に関する子ども向けの講座、イベントを引き続き実施し、啓発を図る。</p> <p>③ 子どもの読書活動推進を目的とした学校図書館支援として、必要に応じて公共図書館における選書やレファレンスに関する実例等を情報提供するほか、学校司書研連絡会、研修にも図書館職員も継続して参加していく。</p> <p>④ 令和7年度に更改を行う図書館情報システムを活用し、学校側が資料を選びやすい仕組みの検討のほか、該当資料の選書等に関する専門性の維持向上を含め、学校連携事業の拡充を図る。</p>
<p>状況説明</p>	<p>① 読み聞かせボランティアについて、図書館にて子ども施設におけるニーズとのマッチングを行い、これまで保育園等の施設での読み聞かせを13件(令和7年度中実績)実施した。</p> <p>② 3月に開催する司書体験ワークショップの開催準備を進めた。</p> <p>③ 2月5日に開催された学校司書連絡会に図書館からも参加し、図書館の取組等に関する情報提供を行ったとともに、会場となった第五中のラーニング commons の視察を行った。また、学校図書館支援として、学校司書や担当教諭からの要請に応じた資料貸出を継続して実施した。</p> <p>④ 図書館情報システム更改において図書館HPをリニューアルし、学校連携のページに学校連携用資料リストを掲載した。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>① 引き続き、読み聞かせボランティアについて、図書館にて子ども施設におけるニーズとのマッチングを行い、実施を支援する。</p> <p>② 3月26日に中央図書館にて司書体験ワークショップを実施する。</p> <p>③ 今後も学校司書連絡会への参加を継続し、連携を図っていくとともに、学校への資料貸出に対応していく。</p> <p>④ 引き続き学校司書連絡会等の場を活用した情報共有、ニーズ把握等により、学校図書館の機能向上に関する支援を継続して行っていく。</p>